

石子町会とのタウンミーティング

日 時 令和6年11月17日（日）10:00～11:30

会 場 石子町公民館

参加人数 44人

1) 開会

2) 石子町会長 挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

・昨年度の3月に「折り紙で作った電車の最多展示数」でギネス世界記録を更新した。これまでには佐賀県嬉野市が西九州新幹線開業時に作った1万9,000枚がギネス記録であった。その記録を北陸新幹線県内全線開業に合わせて更新しようと、新幹線開業日にかけて目標枚数を2万243枚と設定して挑戦したところ、なんと能美市の人口の倍以上である12万枚も折り紙が集まった。ギネス記録員の審査の結果、記録は8万2,034枚となり、この数を皆さんに覚えていただくために即興で「やったぜ(8)、にっこり(2)、の(0)、み(3)、し(4)」という語呂合わせを考えた。来年の3月まで、市役所に折り紙の展示をしているので、ぜひご覧いただきたい。

○令和6年能登半島地震

・市内では、罹災証明書の申請が約1,500件出されている。市内での一番大きな被害は、緑が丘ののり面崩落により、市道が20m程陥没したことである。このほか、マンホール周辺の

陥没や美化センターののり面崩落、福岡小のプールの液状化、神社の燈籠や石碑倒壊の被害が出ている。産業界では九谷焼の被害が一番多かった。

- ・ワンストップ窓口を設置し、市民の皆さんが1か所で様々な手続きを行え、相談もできるように体制を整えた。

- ・能登から避難をされてきた方に対応するため、避難所の設営を行った。辰口福祉会館や旅館、ホテルだけでなく、市営住宅や借り上げた市内のアパートに住まわれたり、友人や知人の家に身を寄せられた方もいらっしゃったりして、一番多いときで約300名の方が避難をされていた。

- ・避難者の様々な要望を聞き、困り事に対応するために、サポート窓口を開設した。また、情報共有や課題解消のために専門家や各種団体、ボランティアの皆さんと避難者受入ネットワーク会議を随時開催した。

- ・被災地への支援として、保健師や職員の人材派遣、消防車や救急車、給水車、パッカー車の車両派遣も行った。市民の皆さんから集まった義援金や物資を能登へお届けするとともに、イベント等で能登の様々な特産品の販売も行った。私も何度か能登へ被害状況の確認に行き、首長さんとどのようなことが必要なのか情報交換を行った。

- ・根上り七夕まつり等で御陣乗太鼓の披露も行っていた。また、根上り七夕まつりの特別企画として、市民の皆さんや中学生の協力のもと、輪島市の白米千枚田で使用している「ペットボトル」を借り受けて、根上総合文化会館の芝生広場で能登地区の復旧・復興を祈念したイルミネーションを行った。能美市全員で能登の復興復旧を応援している。

- ・能美市では競歩の20キロ大会を、輪島市では35キロの大会を行っていたが、被災の影響で輪島市では行えないことから、3月に能美市で競歩の20キロと35キロ、両方を同日開催しようと準備を始めている。

- ・9月には豪雨被害もあり、大きな自然災害がどうして同じ年に能登ばかりに起こるのか、未だに信じられない思いである。現在、能美市の避難所に避難されている方はいらっしゃらないが、市営住宅やアパート、友人や知人の家に身を寄せられている方はまだいらっしゃるので、ぜひ石子町の皆さんにもご協力をいただいて、能登の復旧復興が果たされるまでしっかりと能美市として応援をしていきたいと思っている。

○令和6年度事業・施策／方針・目的

- ・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住

定住の促進につながるように取り組んでいる。自治体の勢いや繁栄を表す数値はいろいろあるが、私は人口が重要だと思っている。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増である。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている。いかに赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるような環境を整備するか、また、健康寿命を延ばすかが重要であり、そのための取組を行っている。

○防災減災対策

- ・能美市に流れている川は一本も直接海に注いでいないので、市内に降った雨をいかに手取川や梯川に流すかが、内水被害を減らしていくことにつながる。
- ・一昨年（2021年）の8月の大雨により、様々な被害が出たことを受け、手取川宮竹用水土地改良区と協定を結び、大雨警報が出たときに手取川から取水しないようにした。これによって、宮竹用水を宮竹排水として使うことができ、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことで、内水被害に対して効果が出るようになった。
- ・個別避難計画の作成を進めており、身体が不自由な人や高齢者等が災害時に取り残されずに避難できるようにしようとしている。24時間365日、あらゆる自然災害を想定して一人一人、計画を作るのはハードルがなかなか高く、まずは被害が比較的大きくなることが想定される地域から個別避難計画の策定を進めている。
- ・令和6年能登半島地震を受けて、災害備蓄品を増やし、簡易トイレと使い捨て哺乳瓶の備蓄数を倍にした。
- ・一昨年（2021年）の8月の大雨で福島町のしらさぎ団地が床上床下浸水したことを受け、大雨が降っても西川、熊田川がバックウォーターすることを防ぐため、樋門を造っている。また、しらさぎ団地付近の川幅を倍にして、大雨が降っても同じような状況にならないよう対策を講じている。
- ・一昨年（2021年）の8月の大雨で特に被害の大きかった和気小学校前の鍋谷川の川幅を広げている。
- ・自然災害だけではなく、火事への対応も行っている。昨年は5件だった火事の発生件数が、今年はもう9件になっている。はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人口規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内の救急車の数が不足するので、最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制としている。

- ・2018年に大雪が降ったことを受け、小型式の除雪車を増やし、皆さんに使ってもらえるようにしている。

- ・宮竹小学校エリアでゾーン30プラスを導入し、30キロ以上スピードが出ないような工夫を行った。交通量が多く、子どもたちの通行や人が多いエリアで、やさしい道路空間づくりを進めており、これまで福岡小学校エリアでも対策を行っている。道路で危ない箇所を広げており、石子の交差点を広げたのもこの一環である。

- ・石川県警から首長で初めて安全安心・広報インフルエンサーという大変重要な役をいただき、月に2回、県警がやっている取組をブログ等でPRしている。

- ・防災行政無線が聞こえないという声を受け、最新型のものに取り換えた。また、災害情報をいつでもどこでも受け取れるよう公式LINEとNomimailメールを導入した。災害情報だけではなく、能美市の様々な情報を簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

○市民力・地域力の強化

- ・市民力・地域力が能美市の強みであると思っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、人と人との交流の機会が少なくなり、市民力・地域力が大分落ちてきた。特に壮年団や女性会等々の所属人数が大幅に減ってきている。市民力・地域力を高めるための様々な取組を行っているが、市民力・地域力の維持に一番重要であるのが、町会・町内会であると考えている。

- ・これまで消防団は、分団と自衛しかなかったが、女性消防団もつくって、火災予防等への啓蒙を高める取組を行っている。

- ・来年、能美市誕生20周年を迎えることから、町会・町内会の皆さんと一緒に能美市を盛り上げようと、ふるさと愛醸成事業として、町会・町内会に一定額の補助を行っている。また、イベントをたくさん行い、交流を盛んにして、意識を高めていこうと考えている。

- ・市民力・地域力の強化には、まずは健康であることが大切であり、市立病院に健診センターを設置し、DWIBS検査やPET検査の助成等を行っている。

- ・体育館に空調設備を導入し、寺井体育館も冷暖房が効くようになっている。

- ・福祉施設の充実も行っており、墓守ができない人が増えていることを受け、空港やインターチェンジに近く、遠くに住んでいる人が来やすい場所にある山口町に合葬墓を作った。

- ・能美電が開通して100年、廃線して45年、能美市誕生20周年の節目である2025年に合わせて、北陸鉄道能美線跡の健康ロードの整備を順次進めている。健康ロードは多くの市民が歩いたり、通学路としても利用されていたりするので、桜の根による隆起の修繕、街灯の整備等を行っている。また、駅の看板等にQRコードを付け、周辺施設の紹介等も行えるようにしようと考えている。

- ・子育て世帯の家計を支援するため、学校給食費の無償化を行った。中学校は、昨年度の2学期から、小学校は3学期から無償化を行っている。

- ・小中学校では、GIGAスクール構想を推進し、授業や家庭持ち帰りでのGIGA端末の活用が全国の中でも極めて良好であると評価されている。

- ・パソコン等で本が借りられる電子図書館を導入している。

- ・最近、不登校だけではなく、学校には行けるが教室に入って一緒に勉強できないという児童が増えてきているため、ふれあい教室を増やし、支援員の増強を行っている。

- ・寺井高校の志望者数がだんだん減少している。能美市は今、企業誘致や地元の企業の業績が大変好調で、人財が欲しい状況であり、寺井高校に多くの学生が通えば、人財の確保にも繋がることとなる。寺井高校の魅力を増やすため、給食センターから寺井高校に給食を運べないかと検討している。このことによって、保護者は弁当をつくる負担が減り、子どもたちも栄養価の高い給食を食べることができるようになる。

○地域ブランドの確立

- ・市民の皆さんに、幸福度や暮らしやすさ等を調査したウェルビーイング指標によると、能美市の強みは「住宅環境」や「子育て」、「自然の恵み」であり、弱みは、「買い物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、いしかわ動物園や手取フィッシュランド等があり、遊ぶ場所はそろっているのではないかなと思う。「買い物・飲食」についても、のみ商業協同組合の75店舗やスーパー、ドラッグストア等がある。

- ・企業誘致が大変好調であり、市税収入が増えている。令和元年度に初めて90億円を超え、その後も順調に推移をしている。また戦略的に企業誘致を行い、女性が活躍できる場所が増えている。

- ・能美根上駅の駐車場がよく満車となっているので、駐車場を広げる。また、能美根上駅の列車の接近音を能美市出身の方が作詞した夏の甲子園のテーマソング「栄冠は君に輝く」

にした。

- ・福島グランパークに新しい総合商業施設ができる予定であり、女性が活躍できる場所がまた生まれる。今、多くの皆さんがここにどのようなお店ができるのかと関心を持っているが、まだ決まっていない。

- ・東西連絡道路沿いの観光施設は利用者が多い。能美ふるさとミュージアム周辺には、ふるさと歴史の広場があり、滑り台を1本増やしたことにより、多くの人が遊びに来ている。ウェルネスハウスSARA Iも日本の小宿100選に選ばれ、本当ににぎわっている。陶芸村も新しくした。

- ・和気の岩のドッグランも人気があるが、手狭なので、リニューアルを行う予定である。

- ・東西連絡道路沿いの金沢大学跡地を購入し、東西連絡道路と加賀産業開発道路を結節するとともに新しい町をつくる予定である。企業誘致が好調である分、住む場所がないと人財が確保できないので、宅地造成を行っている。

- ・能美市のことを広くPRし、能美市を選んでもらえるように、シティプロモーションを行っている。例えば、名誉観光大使である松井秀喜氏に協力をいただいたいて、アニメを制作し、テレビCM等を行っている。

○インクルーシブシティ構想

- ・インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味であり、能美市に住んでいらっしゃる健康な人も、障害をお持ちの人も、高齢者も、子どもも、外国人も、全ての人が安全・安心、快適に暮らせるように、デジタルの力を使って地域共生社会の実現に取り組んでいる。

- ・能美市に今、約1,500人の外国人がいらっしやり、一番多いのはベトナム人で、次が中国人である。石川県内に19の市町があるが、能美市は人口当たりの外国人比率がナンバーワンである。

- ・町会長や民生委員、保護司等にタブレットを持ってもらい、ペーパーレス・相互連絡に役立ててもらっている。

- ・デジタル公民館として様々な取組を行っており、例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないことを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い

方を子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

- ・公民館は避難所になることも多いので、マイナンバーカードを利用した避難所チェックインの導入や、監視カメラを設置し、公民館の付近の川がどれだけ増水しているかや、子どもたちが通ったかどうか等をチェックできるようにする。

- ・オンライン診療にも取り組んでいる。慢性疾患をお持ちの方は月に1回、薬をもらうため、通院して診療を受け、薬をもらう必要があるが、その負担軽減を図るため、公民館でオンラインによる診療が受けられるようにしようとしている。栗生町で試験的に始めており、様々な課題を解消しながら、順次広げていこうと考えている。

- ・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなくなることが発生し、全国的に電子カルテ化が広まった。石川県でも電子カルテが少しずつ始まっていて、今回の能登半島地震では、能登の一部の人が電子カルテに登録してあったことから、避難先の能美市でも薬をもらったり、透析を受けたりすることができた。能美市全体で同じ電子カルテを広げることによって、検査結果を他の病院でも確認でき、医療費が安くなり、診察のスピードが上がるという利点があるほか、病院やケアマネージャー、薬剤師、救急隊等が情報を共有できるようになるメリットがある。また、万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに薬がもらえるようになるので、少しずつ今準備を進めている状況である。

○行財政改革

- ・行財政改革もいろいろ行っており、その一つとしてマイシティレポートがある。修繕が必要な道路の写真をスマホで撮影して、送っていただくと、市役所で場所をすぐに確認することができる。

- ・学校施設の長寿命化に取り組んでいるが、市内の11小中学校は面積比で築50年以上が35%を占める。特に給食室が古かったので、まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しくした。能美市には寺井地区、辰口地区、根上地区と3地区があり、そのうち辰口地区は既に給食センターから給食を提供していたが、寺井地区と根上地区は自校式の給食であった。その2地区に新しい給食センターから給食を提供している。

- ・保育園の民営化にも取り組んでおり、15あった公立保育園のうち、まず、一番古かった福島保育園を民営化した。続いて、緑が丘と湯野保育園を民営化し、新園舎を今造っている。

○能美市誕生20周年・北陸新幹線県内全線開業

・能美市誕生20周年に向けていろいろな取組を行うとともに、北陸新幹線県内全線開業効果も出さなくてはならない。

・能美市には北陸新幹線の駅がないので、小松駅に「となりは能美市」という看板を出してPRしている。金沢へ行くホームのエスカレーターがない階段のところにあるので、ぜひご覧になっていただきたい。

4) 質疑応答、意見交換

質問・意見 1

【参加者】 石子町でも自衛消防団の人員が半減しており、今年は訓練にも参加できない人数となっている。石子町内での火災に対応するため、消火栓の横にホースや口を置くボックスを設置しようと考えているが、予算がない。危機管理課に相談したところ、1件につき10万円程補助金がいただけるとのことであったが、試算したところ、7～8年かかる見込みとなった。良い方法がないかお知恵を貸していただけるとありがたい。

【井出市長】 自衛消防団が少なくなっているのは、能美市全体に言えることである。火災が多くなってきているので、何とかしていかなければならないという思いはある。ご提案の消火栓ごとのボックス設置について、費用がどれぐらいかかるのか算出したい。石子町だけでなく、能美市全体で同様にしてほしいということになると、莫大な予算が必要となってしまう。どのような方式で、いくつぐらい設置すればよいのかを一度、消防本部と検討させていただいて、回答させていただきたい。

質問・意見 2

【参加者】 石子町には消雪装置がないので、メイン道路の信号付近につけてもらえないか。前の町会長のときに要望したところ、手取川の水が減ってつけられないと言われたと聞いている。

【市長】消雪装置設置のご要望を多くいただいている。基本、水が豊富にないと駄目であり、また、除雪車が入って除雪できる場所は消雪装置設置の順番が遅れることになる。また、既存の消雪装置の取り換えに多額の費用がかかっている、なかなか新設が難しい状況である。石子町の幹線道路は両方に道があるところなので、すぐにとというのは難しいが、水があるかどうか、順番がどれぐらいになるかをもう1回算出してみて、改めて町会にお返事させていただければと思う。

質問・意見3

【参加者】ウェルビーイング調査のマイナス面で都市景観があげられていたが、道路上や歩道上の雑草が非常に目立つ。今は枯れているが、ゴールデンウィークやシルバーウィークの期間中、雑草が目立っている。景観が台無しとなり、雑草の種が飛んで農業にも悪い影響が出るのではないかなと思う。年に1回ぐらいは除草していただいていると思うが、時期をよく考えて、除草してほしい。また、能登半島地震で、すぐに陥没がわかった道路もあるが、道路の中で流動化等が起こっていて、経過と共に被害が出てきているところもある。公民館の前も一部補修いただいているが、段差があったり、少しずつ沈み込みが出てきたりしている。先ほどマイシティレポートの話はあったが、土木の責任において、市道の点検を行っていただきたい。

【市長】除草の件は、他にもいろいろなお声をいただいている、市道・県道ともなかなか除草が追いついていない状況なので、しっかりと見直しをしていきたい。道路の陥没については、危険なところから危険を回避するため、短期間で集中的に直していった。そのようなこともあって、時間とともに陥没がさらに深まったところもある。市としては、パトロールしながら把握し、随時補修していきたいと考えているが、さらに陥没が深まる可能性があったり、業者さん自体が能登の応援に行っていて、なかなか補修が追いついていなかったりする現状があるので、適宜適切に進めていきたい。特に液状化の激しかった場所は、専門家の調査済みであり、抜本的な対策もやり始めているので、もう少しお時間をいただければと思う。

質問・意見4

【参加者】企業誘致は良いことばかりではなく、地元企業の人財確保にも影響が出る、逆

の効果もある。3年程前に県内企業で人財確保が重要な課題となってきたときに、地元雇用だけでなく、従業員を連れてきてもらって、移住させるような取組も、県の企業誘致補助制度の対象としても良いのではないかと、要件から地元雇用を撤廃した。

【市長】もちろん市内企業からそういったお声があるということは十分承知している。ただ、大きな会社の工場に勤務するのと、地元の会社に勤務するということは違う。大きな会社に勤務すると、ずっと同じ仕事を将来にわたってすることが多いが、地元の会社であると、頑張れば経営者になれるかもしれない、いろいろな仕事ができたりするということをPRさせていただいている。そのために、地元企業を中心に県内の高校生を対象としたガイダンスを適宜行っている。また、市内の企業に勤め、能美市に引っ越した方の家賃補助を行っているほか、車で通勤される方も多いので、車の購入費用を一部助成する制度も作っている。お互いにWIN-WINになってもらえるようにしているので、ぜひそのあたりをまたフォローしていただければと思う。

質問・意見5

【参加者】朝方、ふるさと歴史の広場の芝生で多くの犬連れの方が遊んでいるのを見かける。子どもも多く利用しているので、衛生的な観点から、ふるさと歴史の広場にドッグランを併設できないか。

【市長】ドッグランを造るとなると、人が遊ぶところが少なくなる。多くの方に利用いただいているので、なかなか難しい状況ではあるが、面積を考えながら検討する。

質問・意見6

【参加者】湯野小学校から寺井小学校まで一本道で繋がって便利になったが、スピード出す車が多い印象を受けている。湯野保育園もその道沿いに移転するので、子どもの安全を確保するためにも、車のスピードが出せないようにできないか。

【市長】いろいろな標識を建てるということも考えられるが、一番効果があるのは、スピード違反の取り締まりをするということである。私も土日、その道をよく通っているが、確かにスピードを出す車が多い。警察にも伝えておく。

質問・意見 7

【参加者】和田山が好きで、時々散歩に行って、相撲場や忠霊塔、桜の木などを見て楽しんでいる。和田山の整備をどのように考えられているのか。

【市長】きれいに整備していかなければならないと考えている。ふるさと歴史の広場や能美ふるさとミュージアムができたことと、クマ対策もあり、間伐を行った。今まで見えなかった東屋が見えるようになったり、枯れ葉の管理が楽になったりした。間伐は引き続きやっていきたいと考えている。

質問・意見 8

【参加者】大きい地震が来たら、避難所が石子町の公民館だけで足りるのか心配である。他の町はどうしているのか。避難所に避難する訓練があまりできていない。

【市長】公民館は仮の避難所で、能美市として指定している避難所は学校や体育館等のしっかりとした建物であり、最終的にそちらに避難してもらうことになる。石子町の方だと、湯野小学校等である。ぜひ避難訓練を町会でしていただいて、自分たちがどこへどうやって逃げるか確認していただければと思う。

質問・意見 9

【参加者】能美市内に市民農園はあるのか。町の中でも空地が増えてきており、無償で市民農園として使いたいという方がいれば、草刈りしなくても済むのではないかと思います。

【市長】市役所本庁舎のそばに市民農園がある。これまでは、辰口フラワーハウス横に市民農園があったが、フラワーハウス跡地に道の駅的機能を持った施設を造るため移設した。もし、ご希望があれば、農林課へ一度問い合わせをしてほしい。

5) 閉会